

今年初めから衆議院選の自民党の圧勝で株高、円安の流れに乗り日本経済にとってよい1年のスタートを切れたことは本当に嬉しく思います。この景気が本物であることを願うのと、これが日本経済復活の最後のチャンスのような気がしてなりません。

上海で暮らす身にとってはこちら1ヵ月で円と元の為替が10%近く変わったことは生活の上で大きな変化を感じますが、やはり日本の輸出関連企業にとっての円安は大歓迎なところでしょう。

中国でも景気減速の中、暮らしを考えると高齢者向

中国の不動産会社はマンション販売の不振などから今後の需要増が見込める高齢者向け住宅開発に拍車がかかりそうです。中国の65歳以上の高齢化は2011年末に9・1%、27年には14%に拡大します。

中国では長い歴史を通して家族が責任を持って親の老後を扶養することは伝統文化で人々の間で根差しています。現在では一人っ子政策の実施、核家族化から老後を子供と一緒に暮らすことなど考えられない状況に変化してきました。

中国高齢化社会の老後の暮らしを考えると高齢者向

不動産開発業者にチャンス到来

住宅が不動産業界としての新しい開発分野になってくるのは間違いないあります。他の分野からも拡大する高齢者市場を虎視眈々と狙っています。政府も高齢者住宅不足対策として、今年から北京

市では、養老施設用土地を年度国有建設用地供給計画に組み入れが決まっています。高齢者向け住宅の土地規制が解かれ不動産開発業者にとってはチャンス到来となります。

このような背景から老人を介護する介護人材不足、介護人材教育の課題が露呈し浮かび上がってきます。弊社でも上海において今年1月から中国企業との合弁会社により介護人材養成



ゲストハウス社長 松山英樹

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

学校の許認可を頂きました。上海でも民間の許認可は初めてということですが引き締まる思いと今後の市場の拡大に胸が躍ります。日本と中国の2国間の軌轍の中でも中国には絶大な日本製品、日本サービスへの信頼感、人気があり、介護関係ではリハビリ、介護用品、介護機器、衛生用品、人材育成、シニア食関連などまだまだ参入の余地が限りなく存在します。

これを機会にあらゆる分野で日本の介護関連サービスを中国で広めていければと考えております。次回は弊社のヘルパー養成学校から今後の中国でのシニア事業展開をお話できればと思います。

このような背景から老人を介護する介護人材不足、介護人材教育の課題が露呈し浮かび上がってきます。弊社でも上海において今年1月から中国企業との合弁会社により介護人材養成